

平成 30 年度

松戸市地域環境調査報告書



54 地区 小松調査員撮影
「カワラヒワ」



32 地区 松村調査員撮影
「コアジサシ」

松戸市 環境部 環境政策課

はじめに

野鳥は自然のバロメーターともよばれ、自然の中で、他の生き物とも様々な関わりをもって生活している生き物のひとつです。人間もまたこの自然のしくみに深く関係し、自然の恵みを受けながら生活をしています。

松戸市では「松戸市環境計画」（平成10年4月策定）のなかで『めざすまちの姿』として、「①人と生きものが共存しているまち、②健康的な日々を過ごすための環境が整ったまち、③地球の環境にやさしいまち」を掲げています。

多くの野鳥を育めるような環境を守っていくことは、私たちにとって『健康的な日々を送れる、地球環境にやさしい、住みやすいまち』（松戸市環境計画に掲げた「めざすまちの姿」）となるための指標のひとつになります。

上記の『めざすまちの姿』を実現させるため、平成11年度から「地域の人達に住まい周辺の環境状況を自ら調査する機会と、地域住民が同じ目標をもって地域独自の環境作りを始めるきっかけを提供する」ための『生きもの調査』事業が実施されました。

『生きもの調査』では野鳥のほかに、蝶やトンボ、セミ、バッタなどの生息状況も調査を5年間実施しました。

平成17年度からは、調査内容の一部を見直し、対象を野鳥に絞った『地域環境調査』を平成21年度までの5年間実施しました。また、平成23年度から環境度の指標を変更しました。

また、平成27年度からは、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律（平成16年法律第78号）第2条第1項に定める特定外来生物（以下「特定外来生物」という。）の他、調査員が興味を持った野生の生きもの（以下「その他の生きもの」という。）についても報告いただく体制としました。

『地域環境調査』事業は、調査員による調査結果を市のホームページで公表することで、市民の皆さまに身近な環境について知っていただき、環境や自然について考えるきっかけをつくることを主な目的としています。

目次

1. 調査目的	4
2. 調査範囲	4
3. 調査の方法等	7
(1) 調査期間	7
(2) 調査方法	7
(3) 評価方法	8
4. 調査結果 前期 (4月～9月)	11
各地区の点数	11
得点化されている野鳥の目撃された地区	12
近年の比較	17
年間	18

参考資料

○平成30年度における活動の実績	27
○平成30年度の野鳥観察会で確認できた野鳥	28
○土地利用状況	30
○特定外来生物	31
○その他の生きもの	36
○コラム	38
○地域環境調査員からの短信	40
○おわりに	53

1. 調査目的

松戸市で実施している地域環境調査には次のような目的があります。

- (1) 地域の野鳥を地域の人が自ら観察・調査することで、地域の環境についての関心を高めること。
- (2) 地域で観察された野鳥の変化を経年的に捉えることで、地域環境全般の総合的な評価を得ること。
- (3) (1) および (2) により、地域環境の問題点を浮き彫りにし、地域独自の自発的な取り組みの活力を高めること。
- (4) 松戸市環境計画の見直し等の総合指標として活用し、環境計画推進の実効性を向上すること。

2. 調査範囲

松戸市全域を図-1のように1km四方の65調査区に分け、それぞれの地区に地域環境調査員(市民ボランティア)を配置し、担当調査区域内の環境を調査します。

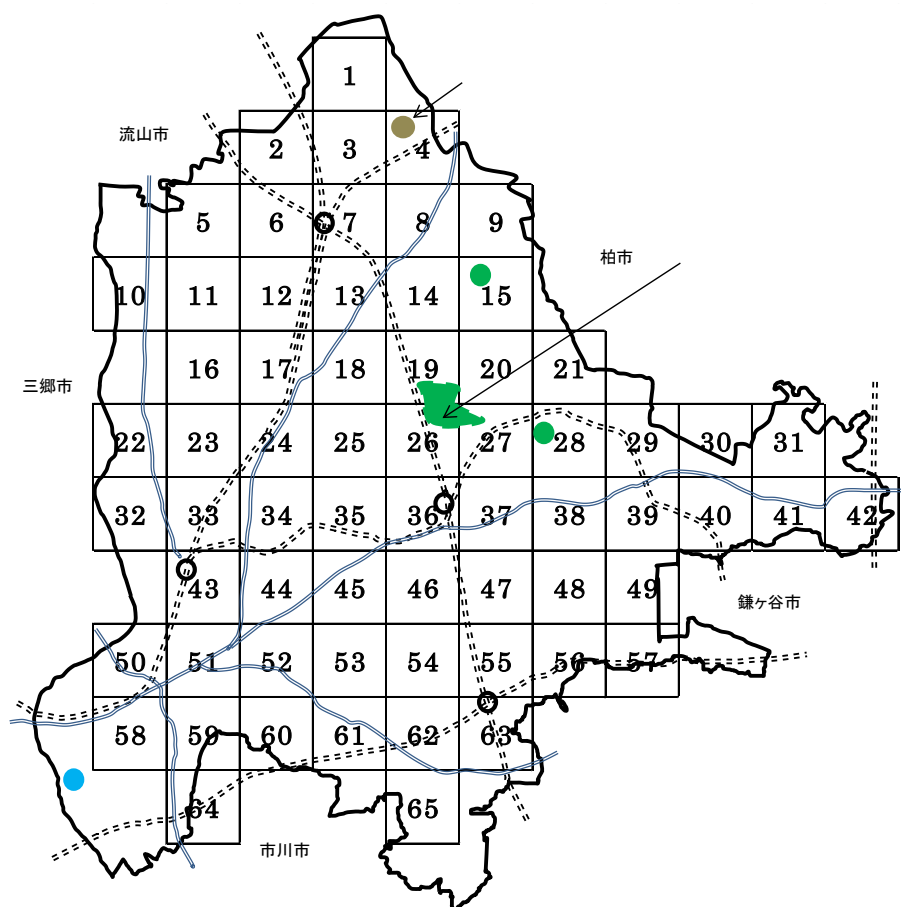


図-1 調査区域図

表-1 平成 30 年度地域環調査（各地区の主な施設・場所）

地区 No	地区名	調査場所
1	幸田地区	幸田鉄塔通り、富士川・坂川沿い、幸田第1・2・3公園、浅間公園 等
2	横須賀地区	横須賀中央公園、坂川付近、大勝院、大倉記念病院、小金高校周辺 等
3	大金平地区	東漸寺、鹿嶋神社、本土寺、中金杉、広徳寺、大谷口歴史公園、大倉記念病院 等
4	東平賀地区	根木内城跡公園、富士川周辺、本土寺参道、北小金駅北口商店街、東平賀公園 等
5	新松戸地区	新松戸西小、南小、西パーク街、サンライト街区、あおぎり公園、もくれん公園、旭町田畑、稲荷大橋、坂川放水路左岸堤 等
6	新松戸地区	2番街、8番街、新松戸中央公園、けやき通り、坂川 等
7	幸谷地区	大谷口新橋、下山公園、溜脇公園、関さんの森N02、東漸寺、山王公園、こどもの森、幸谷斜面林、新松戸第1公園、水琴橋 等
8	久保平賀地区	清ヶ丘小金公園、ユーカリ交通公園 等
9	根木内地区	根木内歴史公園及び広池学園との市境 等
10	主水新田地区	まこも池、主水新田地区、江戸川河川敷、主水池、稲荷神社、栄町・旭町田んぼ付近 等
11	旭町地区	はずだ公園、けやき公園 等
12	西馬橋地区	新坂川、相川公園、新松戸南公園、中道公園、西馬橋1～3丁目、広田公園 等
13	幸谷地区	二三ヶ丘公園、南谷公園 等
14	八ヶ崎地区	金谷寺周辺、八ヶ崎第二小学校周辺、すずめ公園 等
15	小金原地区	小金原7丁目 等
16	栄町地区	下通橋、香取神社、吉岡梨園、長津道橋(坂川)、旭小、馬橋高手前六間川、日本大学周辺 等
17	西馬橋地区	全域(ロード) 等
18	馬橋地区	中和倉公園、馬橋第二公園 等
19	八ヶ崎地区	21世紀の森と広場 等
20	栗ヶ沢地区	はくちょう公園、栗ヶ沢中、ひばり公園、貝の花小、高木小学校、千葉西病院 等
21	金ヶ作地区	金ヶ作自然公園 等

地区 No	地区名	調査場所
22	古ヶ崎地区	江戸川河川敷
23	古ヶ崎地区	古ヶ崎第二公園、栄町第二公園 等
24	北松戸地区	中台公園 等
25	上本郷地区	松戸運動公園、県立松戸高校周辺 等
26	千駄堀地区	21世紀の森と広場、香取神社周辺、松戸中央霊園 周辺 等
27	常盤平地区	21世紀の森と広場、常盤平団地 等
28	常盤平地区	金ヶ作公園、ふよう公園 等
29	五香六実地区	金ヶ作周辺 等
30	六高台地区	北丘第二公園 等
31	高柳新田地区	六高台3～6丁目、六実中央公園、グリーンベルト (桜並木)、六実中学校 等
32	古ヶ崎地区	江戸川河川敷、樋野口 等
33	根本地区	中町児童公園、松戸市役所 等
34	南花島地区	南花島公園、上本郷駅 等
35	松戸新田地区	稔台駅、松戸運動公園 等
36	日暮地区	千駄堀、駒形公園周辺 等
37	常盤平地区	牧の原付近 等
38	初富飛地地区	牧の原団地公園、調整池周辺、金比羅神社、しら かし公園、けやき通り 等
39	松飛台地区	松飛台小学校周辺 等
40	五香六実地区	元山駅、ふれあい公園 等
41	六実地区	スポーツ広場周辺、六実1～3丁目 等
42	六実地区	六実3～5丁目 等
43	松戸地区	坂川周辺、松戸中央公園、松戸神社 等
44	胡録台地区	松ヶ丘小学校周辺、神明神社 等
45	稔台地区	稔台工業団地、和名ヶ谷地区 等
46	稔台地区	河原塚小周辺
47	河原塚地区	八柱霊園
48	松飛台地区	八柱霊園
49	松飛台地区	松戸南郵便局 等
50	小山地区	江戸川河川敷、南部小学校、坂川、川端道他、角 町周辺等
51	三矢小台地区	戸定が丘歴史公園、千葉大園芸学部 等

地区 No	地区名	調査場所
52	二十世紀が丘地区	和名ヶ谷中、和名ヶ谷クリーンセンター周辺 等
53	和名ヶ谷地区	和名ヶ谷、国分川周辺等
54	紙敷地区	河原塚中学校周辺、国分川周辺、春日神社、春木川 等
55	紙敷地区	紙敷石みやの森、東松戸駅周辺、八柱霊園周辺、東松戸駅周辺 等
56	松飛台地区	松飛台駅、関台公園 他
57	松飛台地区	泉ヶ丘1号緑地
58	中矢切地区	野菊の墓、下矢切264周辺 等
59	三矢小台地区	三矢小台公園、寺沢公園、鴻之台公園、神明公園、矢切神社 等
60	二十世紀が丘地区	大橋公園、胡録神社 等
61	秋山地区	松戸向陽高校周辺 等
62	秋山地区	もえぎの風公園周辺 等
63	高塚新田地区	高塚十字路 等
64	矢切地区	矢切地区、栗山浄水場、立身台公園 等
65	高塚新田地区	東部市民センター

3. 調査の方法等

(1) 調査期間

各年度の4月～3月末までの1年間を調査期間としています。

1年間を春～夏の期間の4月～9月（前期）、秋～冬の期間の10月～3月（後期）の半年ごとに分けています。

表-2 平成30年度の調査期間

前期	平成30年4月～平成30年9月（春～夏）
後期	平成30年10月～平成31年3月（秋～冬）

(2) 調査方法

調査員は、各自で選んだ担当調査区内で比較的環境度の高いと思われる（公園や神社、田畑、河川敷等）場所において、可能な回数野鳥観察を実施します。野鳥の種類が分かったものについて○を調査票に記入し、半年ごとに事務局（市）へ報告します。

(3) 評価方法

評価にあたっては、公益財団法人日本鳥類保護連盟（以下：公財）日本鳥類保護連盟）が作成した「環境ものさし」を用いて行います。

この「環境ものさし」では、どのような環境にも生息できる鳥から豊かな自然環境にしか生息できない鳥まで、指標となるもの 50 種類選出されています。ドバトのような身近にいる鳥には 1 点、クマタカのような森林地帯にいるような鳥には 10 点など、それぞれに 1 点～10 点(表-3)の点数がつけられています。

この評価方法に基づき、観察された野鳥の合計点を算出することによって、その地域の環境度を知ることができます。

なお、「環境ものさし」では、鳥の繁殖期間にあたる春～夏（4 月～9 月）の期間が点数の対象となっています。

環境度の算出対象期間：春～夏 4 月～9 月

表-3 「環境ものさし」における野鳥の点数

10 点	クマタカ	7 点	アカゲラ	5 点	ヒバリ
9 点	アカショウビン		オオアカゲラ	4 点	コゲラ
9 点	サシバ	7 点	オオタカ		メジロ
	フクロウ	7 点	キビタキ	4 点	キジ
8 点	アオバズク		センダイムシクイ	4 点	セグロセキレイ
8 点	アオバト	6 点	ホトトギス	3 点	カワラヒワ
	ツツドリ	6 点	ヤマガラ	3 点	キジバト
8 点	クロツグミ		エナガ	3 点	シジュウカラ
8 点	コガラ		イカル	3 点	ツバメ
	ゴジュウカラ	ウグイス	コシアカツバメ		
8 点	サンコウチョウ	5 点	ホオジロ	3 点	ヒヨドリ
8 点	サンショウクイ	5 点	カッコウ	3 点	ムクドリ
8 点	ミソサザイ		モズ	2 点	スズメ
	オオルリ	5 点	カワセミ	2 点	ハクセキレイ
8 点	ヤマドリ	5 点	キセキレイ	2 点	ハシボソガラス
7 点	アオゲラ	5 点	セッカ	1 点	ドバト
			オオヨシキリ	1 点	ハシブトガラス



図-2 野鳥の点数 (出典: 公財) 日本鳥類保護連盟)

例えば、スズメを観察すれば2点になりますが、1羽でも多数観察しても同じ2点になります。また、同じ4点の枠にいるコゲラ若しくはメジロの場合には、どちらか又は両方観察しても、同じ4点のみになります。

これらの点数を合計し、点数により地域の環境度を評価します。評価の基準は点数により5段階に分かれ、環境の状態は表-4のようになります。

表-4 環境度・点数と環境の状態

合計点と環境	環境の状態
A : 121 点以上	<p>Bまでの鳥に加え、ツツドリ、オオルリ、クロツグミのような森林性の鳥が見られるようでしたら、そこは里山から奥山化へと進んだ山地的な環境と言えるでしょう。</p> <p>また、森林生態系の頂点に立つクマタカや、森に棲むカワセミの仲間であるアカショウビンが見られれば、そこは私たちの生活圏からかなり離れた、自然豊かな山地の森林です。</p>
B : 81~120 点	<p>Cまでの鳥に加え、ホトトギスやヤマガラ、エナガのようなまとまった森林に生息する鳥が見られるようでしたら、そこは丘陵や谷津田のある里山的な環境と言えるでしょう。</p> <p>もし、サシバなどが見られれば、そこは典型的な里山です。里山は、昔から人によって利用・管理されてきた場所ですが、今では自然豊かな環境として注目されています。</p>
C : 41~80 点	<p>Dまでの鳥に加え、ヒバリのように草地に生息する鳥、セグロセキレイのように水辺を利用する鳥、ホオジロやモズのように林を利用する鳥が見られるようでしたら、そこは市街地から離れた広がりのある田園的な環境と言えるでしょう。</p> <p>田園地帯は人によって作られた空間ですが、生物の生息に適した環境が比較的残っています。</p>
D : 21~40 点	<p>Eの鳥に加え、シジュウカラやメジロ、ヒヨドリなど、ある程度まとまった木々があれば生息できる鳥が見られるようでしたら、そこは市街地の中でも比較的緑のある環境と言えるでしょう。</p> <p>このような緑地の多くは公園として利用されていますが、同時にそこは市街地に棲む生息空間となる重要な場所です。</p>
E : 1~20 点	<p>カラスやドバトのように様々な環境への順応力の高い鳥や、スズメのように人の生活に依存するような鳥しか見られないようでしたら、そこは市街地の中でも都市化の進んだ環境と言えるでしょう。</p> <p>多様な生物の棲む環境としては適していません。</p>

4. 調査結果 前期（4月～9月）：環境度の評価対象期間

平成30年度前期に一羽でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中、47地区でした。

なお、「環境ものさし」において点数化されている野鳥50種については、50種中37種の野鳥について報告がされました。

報告された50種中37種の野鳥を点数化した結果、市全体での平均点は49点（前期に一度でも観察された野鳥を点数化し、報告のあった調査区数で割った平均点）となり、環境度はA～Eの5段階評価のうち松戸市としての平均はCの評価となります。

地区毎に見てみますと、Bに属する81点以上120点以下となった地区は3地区あり、Cに属する41点以上80点以下となった地区は27地区ありました。

表-5に各地区の点数、表-6に野鳥の種類別に観察された地区を示しています。








表-5 各地区の点数（4月～9月）（単位：点）

地区番号	点数	地区番号	点数	地区番号	点数	地区番号	点数
1	64	18	—	35	—	52	—
2	44	19	53	36	43	53	—
3	30	20	68	37	38	54	72
4	47	21	—	38	23	55	46
5	63	22	54	39	34	56	63
6	55	23	—	40	—	57	—
7	62	24	—	41	—	58	81
8	63	25	56	42	—	59	48
9	60	26	65	43	29	60	—
10	57	27	57	44	30	61	81
11	44	28	35	45	51	62	—
12	36	29	35	46	36	63	21
13	—	30	—	47	58	64	23
14	39	31	27	48	46	65	39
15	55	32	95	49	—	合計	2,323点
16	36	33	—	50	76	2,323点／C評価	
17	37	34	—	51	48		








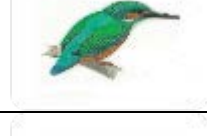




【合計2,323点÷47地区（報告のあった地区数）＝松戸市の平均49点】













※ は、環境度がB（81点以上）の地区になります。


表-6 得点化されている野鳥の目撃された地区

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
1		ドバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 12・14・15・16・17・20・22・25・ 26・27・28・29・31・32・36・37・ 38・39・43・44・45・46・47・48・ 50・51・54・55・56・58・59・61・ 63・64・65
1		ハシブトカラス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・ 47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・61・63・64
2		スズメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・ 47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・61・63・64・65
2		ハクセキレイ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・15・16・19・20・22・25・ 26・27・29・31・32・36・37・38・ 43・44・45・46・47・48・50・51・ 54・55・56・58・59・61・64・65
2		ハシボソカラス	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・ 12・14・15・16・17・19・20・22・ 25・26・27・28・31・32・36・38・ 39・44・45・46・47・48・50・51・ 54・55・56・58・59・61・64・65
3		カワラヒワ	1・2・5・6・7・8・9・10・11・ 14・15・16・17・20・22・25・27・ 32・36・37・44・45・46・47・48・ 50・51・54・55・56・58・59・61・ 65
3		キジバト	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・44・45・46・47・ 48・50・51・54・55・56・58・59・ 61・64・65

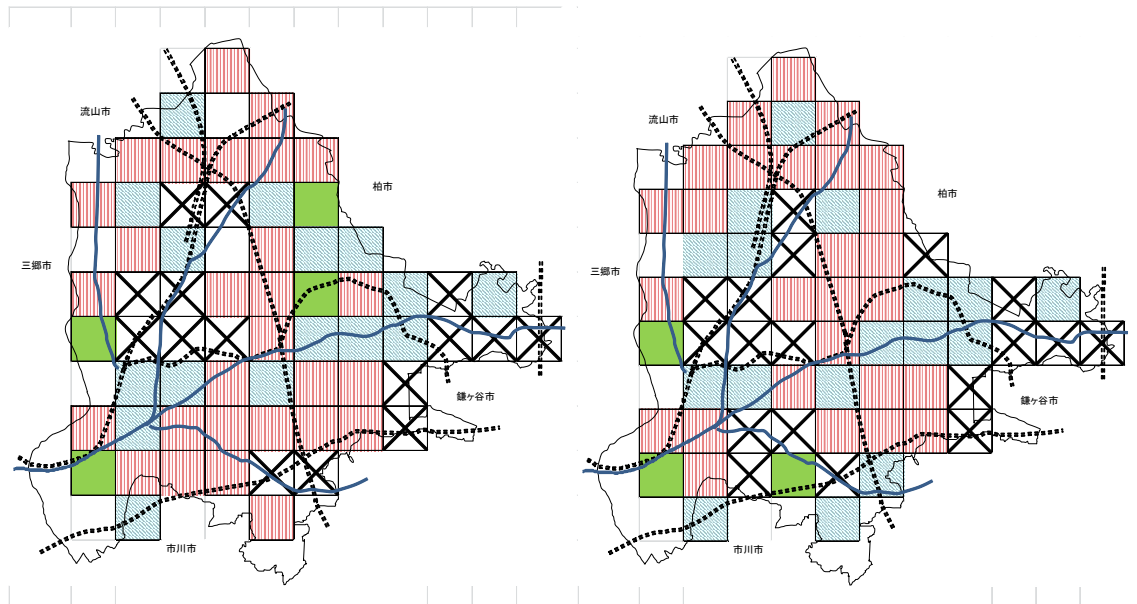
点数	写真	野鳥名	目撃された地区
3		コシアカツバメ	63
3		ツバメ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・ 47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・61・64・65
3		シジュウカラ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・ 47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・61・64・65
3		ヒヨドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・44・45・46・47・ 48・50・51・54・55・56・58・59・ 61・64・65
3		ムクドリ	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・ 11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・ 47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・61・64・65
4		キジ	1・10・22・32・50・54・58・61
4		コゲラ	2・5・6・7・8・9・14・15・19・ 20・25・26・27・32・36・39・44・ 47・48・50・51・55・56・58・59・ 61・65
4		メジロ	1・2・3・5・7・8・9・11・12・ 14・15・17・19・22・25・26・27・ 29・31・32・36・37・43・44・45・ 47・48・50・51・54・56・58・59・ 61・65

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
4		セグロセキレイ	1・2・4・9・12・15・17・19・20・ 25・27・39・50・56・61・63
5		ウグイス	1・2・3・4・5・6・7・8・9・14・ 15・19・20・25・26・27・29・32・ 36・37・39・43・45・48・50・51・ 54・55・56・58・59・61・63・65
5		ホオジロ	1・5・6・8・9・10・15・19・22・ 26・27・32・50・54
5		オオヨシキリ	5・6・10・11・22・32・50・54・ 61
5		セッカ	10・11・15・20・22・32・50・58
5		カッコウ	
5		モズ	1・5・6・7・8・9・10・11・15・ 16・17・20・25・26・32・45・46・ 50・54・58・61・65
5		カワセミ	1・2・4・5・6・8・9・12・19・ 22・26・27・32・43・46・50・54・ 56・58・61
5		キセキレイ	4・8・9・61
5		ヒバリ	1・4・5・6・10・11・16・20・22・ 25・29・32・37・45・48・50・54・ 55・56・58・61・63
6		イカル	15・54
6		エナガ	1・7・8・9・14・15・20・26・27・ 28・32・45・47・48・50・51・58・ 59・61

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
6		ヤマガラ	7・8・9・15・19・26・27・32・51・55・58・59
6		ホトトギス	26
7		アオゲラ	
7		アカゲラ	
7		オオアカゲラ	
7		オオタカ	10・19・25・27・32・47・50・54・56・58・61
7		キビタキ	7・8・32・47・51・56・59
7		センダイムシクイ	7・26・47・51
8		アオバズク	
8		アオバト	
8		ツツドリ	20・32
8		オオルリ	5・28

点数	写真	野鳥名	目撃された地区
8		ミソサザイ	
8		クロツグミ	
8		コガラ	36
8		ゴジュウカラ	
8		サンコウチョウ	32・47
8		サンショウクイ	
8		ヤマドリ	
9		アカショウビン	
9		サシバ	7
9		フクロウ	58
10		クマタカ	

各地区の点数の比較として、平成29年度と平成30年度の各地区の状況を図-3及び図-4にて、経年の比較として3年分の目撃種類数及び平均点数を表-7にて示しています。



50点/環境度：C

図-3 地区別点数（平成29年度）

49点/環境度：C

図-4 地区別点数（平成30年度）

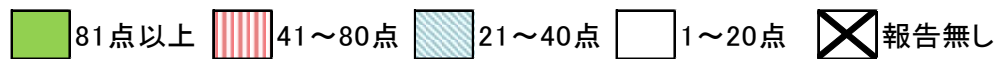
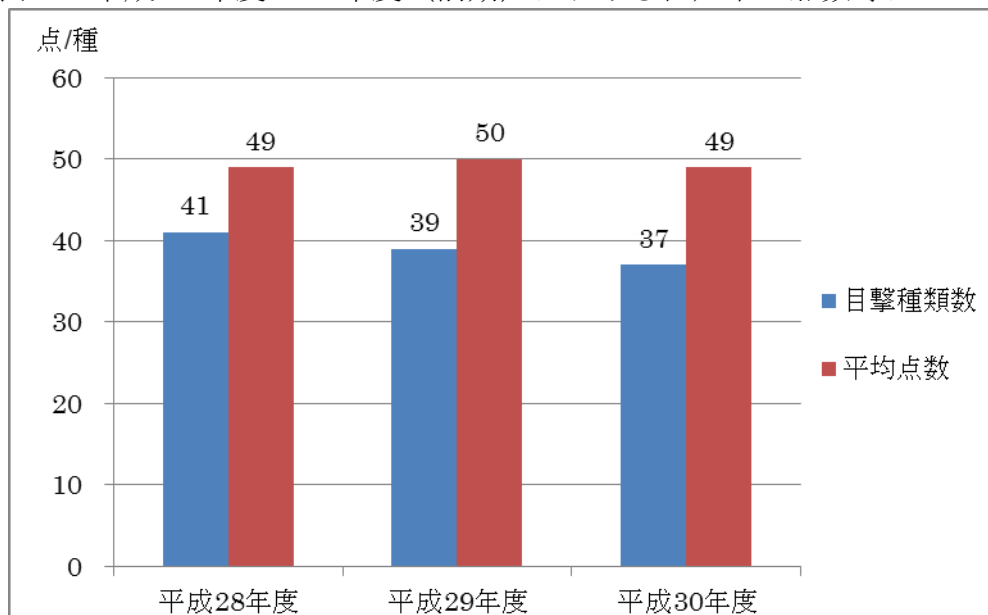


表-7 平成28年度～30年度（前期）における松戸市の点数等について



※目撃種類数は、得点化されている50種になります。

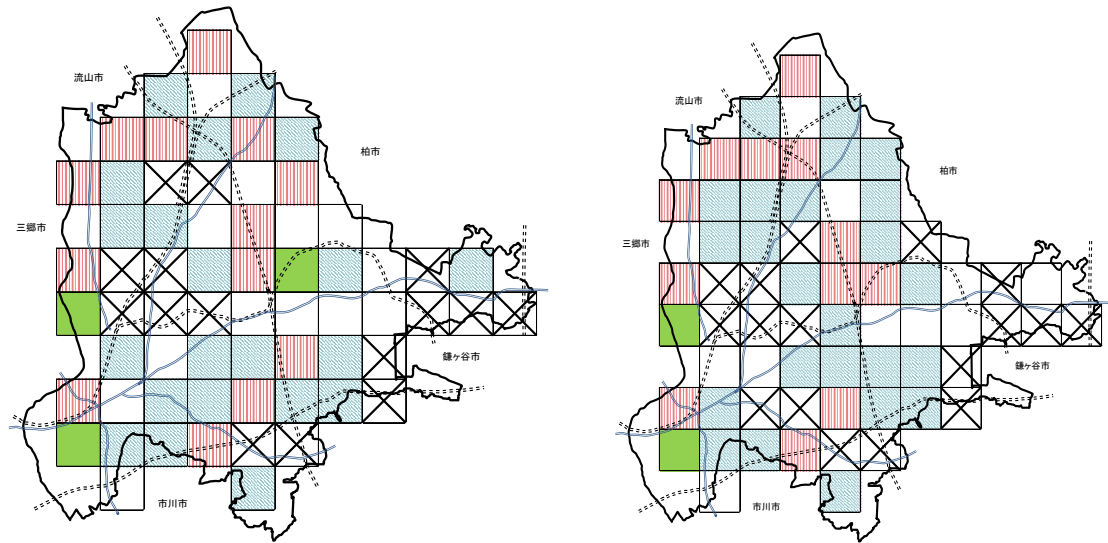
調査結果 年間

平成30年度中に一度でも野鳥の発見報告があった地区は、65地区中48地区の報告があり、観察報告のあった目撃種類数は、111種類でした。各地区で目撃された種類数を表-8にて示しています。

表-8 各地区の目撃種類数（年間） （単位：種）

地区番号	種類数	地区番号	種類数	地区番号	種類数	地区番号	種類数
1	43	18	—	35	—	52	—
2	33	19	49	36	21	53	—
3	12	20	24	37	17	54	49
4	33	21	—	38	13	55	21
5	47	22	45	39	19	56	35
6	42	23	—	40	—	57	—
7	50	24	—	41	—	58	64
8	36	25	31	42	—	59	28
9	33	26	50	43	20	60	—
10	48	27	55	44	19	61	56
11	33	28	22	45	23	62	—
12	32	29	15	46	38	63	8
13	12	30	—	47	40	64	16
14	16	31	17	48	28	65	19
15	35	32	86	49	—	111種類／年間	
16	33	33	—	50	51		
17	22	34	—	51	28		

各地区の目撃された種類数の比較として、平成 29 年度と平成 30 年度の各地区で目撃された種類数の状況を図-5 及び図-6 にて、表-9 では平成 30 年度における月別に目撃された種類数を示しています。



123 種類／年間

111 種類／年間

図-5 地区別目撃種類数(平成 29 年度)

図-6 地区別目撃種類数(平成 30 年度)

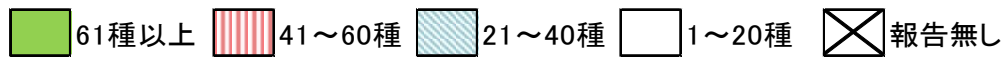
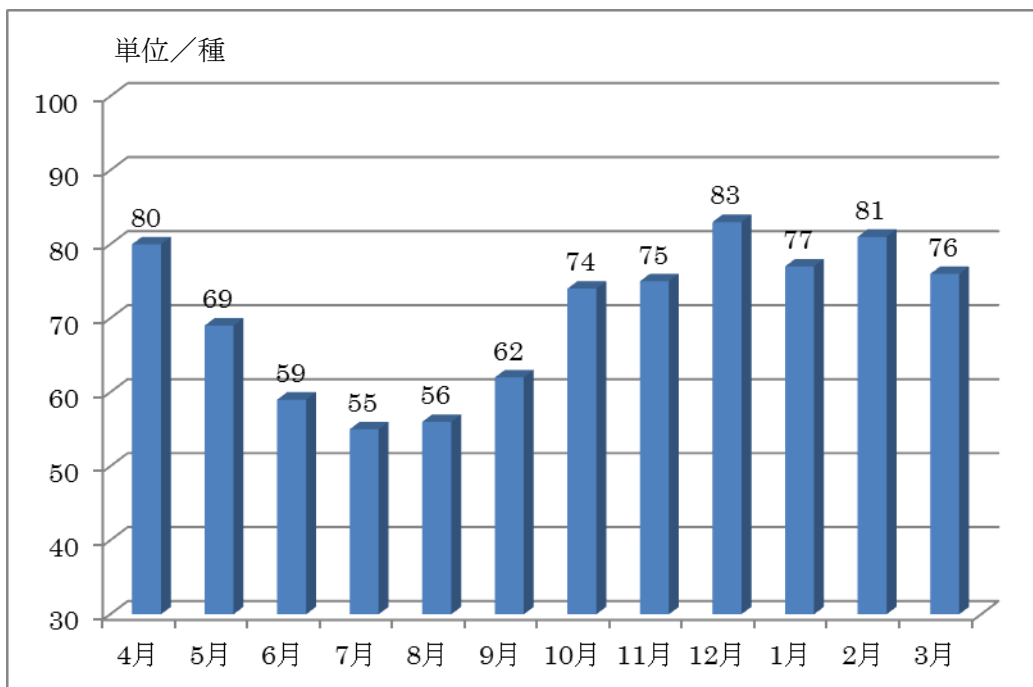
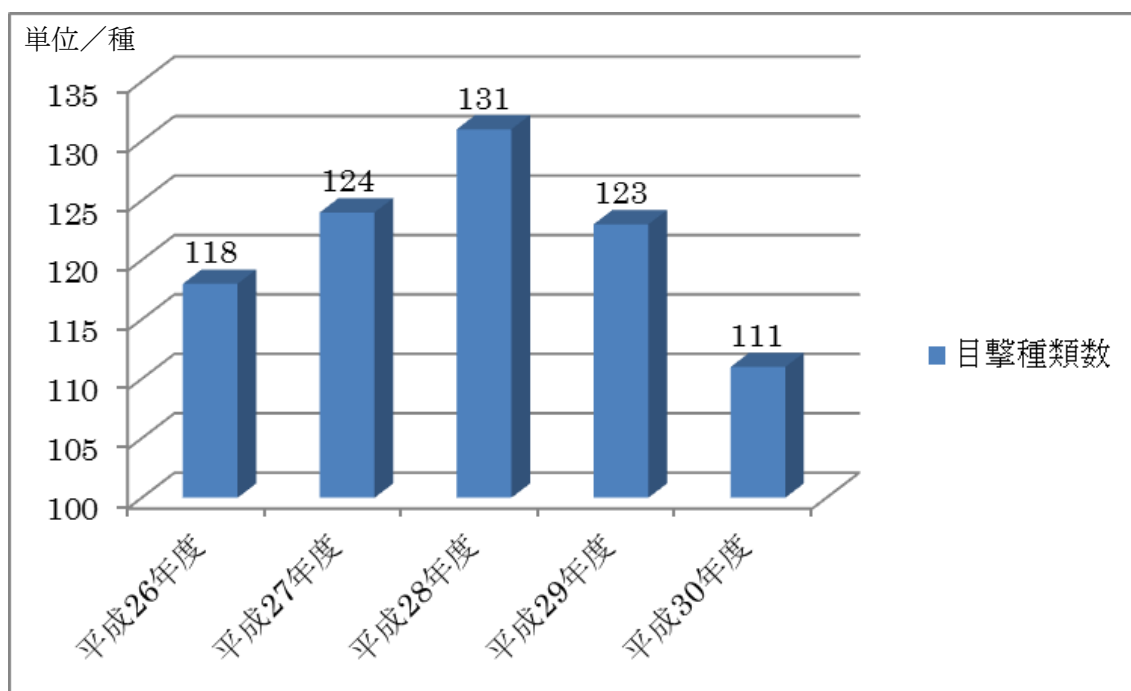


表-9 平成 30 年度における月毎の野鳥の目撃種類数



経年の比較として5年分の目撃された種類数を、表-10にて示しています。

表-10 平成26年度～30年度における目撃種類数



目撃された野鳥の種類数を比べてみると、例年より多少、種類数が減少しています。年度によって調査員の経験や調査回数、調査員の配置された人数などに影響されると考えられます。

なお、観察された場所を見てみると河川などの水面・田畑・樹林地や街路樹、植林等の樹木が多いところなどで多くの野鳥が観察される結果となっています。

表-11 では、平成 30 年度に野鳥毎に目撃された地区を示しています。

表-11 平成 30 年度において野鳥の目撃された地区（年間）

◇以下得点の対象となっている野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
アオバト	1	16
イカル	2	15・54
ウグイス	42	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・12・13・14・15・ 16・17・19・20・22・25・26・27・29・32・36・37・ 39・43・44・45・47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・61・63・65
エナガ	26	1・6・7・8・9・14・15・19・20・22・25・26・27・ 28・32・36・45・47・48・50・51・55・56・58・59・ 61
オオタカ	15	1・5・7・10・19・25・27・32・47・50・51・54・ 56・58・61
オオヨシキリ	9	5・6・10・11・22・32・50・54・61
オオルリ	2	5・28
カワセミ	22	1・2・4・5・6・7・8・9・12・16・19・22・26・27・ 32・43・46・50・54・56・58・61
カワラヒワ	39	1・2・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・16・ 17・19・20・22・25・26・27・28・32・36・37・38・ 44・45・46・47・48・50・51・54・55・56・58・59・ 61・65
キジ	8	1・10・22・32・50・54・58・61
キジバト	46	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・ 15・16・17・19・20・22・25・26・27・28・29・31・ 32・36・37・38・39・44・45・46・47・48・50・51・ 54・55・56・58・59・61・64・65
キセキレイ	9	4・8・9・13・27・46・48・56・61
キビタキ	11	7・8・19・20・32・36・47・51・56・58・59
コガラ	3	12・15・36
コゲラ	26	1・2・5・6・7・8・9・14・15・19・20・25・26・27・28・32・ 36・39・44・45・47・48・50・51・55・56・58・59・ 61・65
コシアカツバメ	1	63
サンバ	1	7
サンコウチョウ	2	32・47

種 類	地区数	目撃された地区
シジュウカラ	46	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・20・22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・47・48・50・51・ 54・55・56・58・59・61・64・65
スズメ	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・ 15・16・17・19・20・22・25・26・27・28・29・31・ 32・36・37・38・39・43・44・45・46・47・48・50・ 51・54・55・56・58・59・61・63・64・65
セグロセキレイ	21	1・2・4・8・9・12・15・17・19・20・22・25・26・ 27・39・50・56・59・61・63・64
セッカ	8	10・11・15・20・22・32・50・58
センダイムシクイ	4	7・26・47・51
ツツドリ	4	19・20・32・47
ツバメ	46	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・ 16・17・19・20・22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・47・48・50・51・ 54・55・56・58・59・61・64・65
ドバト	47	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・ 15・16・17・20・22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・38・39・43・44・45・46・47・48・50・51・ 54・55・56・58・59・61・63・64・65
ハクセキレイ	44	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・ 19・20・22・25・26・27・28・29・31・32・36・37・ 38・39・43・44・45・46・47・48・50・51・54・55・ 56・58・59・61・64・65
ハシブトカラス	48	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・ 15・16・17・19・20・22・25・26・27・28・29・31・ 32・36・37・38・39・43・44・45・46・47・48・50・ 51・54・55・56・58・59・61・63・64・65
ハシボソカラス	45	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・15・ 16・17・19・20・22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・38・39・44・45・46・47・48・50・51・54・55・56・ 58・59・61・63・64・65
ヒバリ	24	1・4・5・6・7・10・11・12・16・20・22・25・29・32・37・45・ 48・50・54・55・56・58・61・63
ヒヨドリ	45	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・14・15・16・17・19・20・ 22・25・26・27・28・29・31・32・36・37・38・39・44・45・46・ 47・48・50・51・54・55・56・58・59・61・64・65・
フクロウ	2	25・58

種 類	地区数	目撃された地区
ホオジロ	18	1・4・5・6・8・9・10・13・15・19・22・26・27・ 32・50・54・58・61
ミソサザイ	2	1・32
ムクドリ	47	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・ 15・16・17・19・20・22・25・26・27・28・29・31・ 32・36・37・38・39・43・44・45・46・47・48・50・ 51・54・55・56・58・59・61・64・65
メジロ	45	1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11・12・13・14・ 15・16・17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・ 36・37・39・43・44・45・46・47・48・50・51・54・ 55・56・58・59・61・64・65
モズ	36	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・15・16・17・19・ 20・22・25・26・27・31・32・36・39・45・46・47・ 48・50・51・54・55・56・58・59・61・65
ヤマガラ	17	7・8・9・15・19・20・25・26・27・28・32・47・ 51・55・58・59・61

◇以下得点の対象となっていない野鳥（五十音順）

種 類	地区数	目撃された地区
アオサギ	28	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・19・22・26・27・31・32・43・46・50・51・54・56・58・61
アオジ	28	1・4・7・8・9・10・12・15・19・20・22・25・26・27・28・32・44・45・47・48・50・51・54・56・58・59・61・65
アカエリヒレアシシギ	1	19
アカハラ	11	6・7・13・22・25・27・32・47・51・58・61
アトリ	14	5・7・8・15・19・20・25・26・27・28・32・37・47・61
アメリカヒドリ	1	54
アリスイ	2	27・32
イソシギ	9	1・5・6・10・11・27・32・54・58
イソヒヨドリ	5	6・7・32・45・50
イワツバメ	3	5・54・61
ウミネコ	1	32
エゾビタキ	4	7・32・47・48
オオジュリン	7	10・15・22・32・50・58・61
オオバン	21	1・2・4・5・6・7・10・12・16・17・19・22・26・27・32・43・46・50・54・58・61
オカヨシガモ	9	10・16・19・22・26・27・32・46・54
オナガ	45	1・2・3・4・5・6・7・8・9・11・12・13・14・15・16・17・19・22・25・26・27・28・29・31・32・36・37・38・39・43・44・45・46・47・48・50・51・54・55・56・58・59・61・64・65
オナガガモ	8	19・26・27・32・46・54・58・61
カイツブリ	16	1・2・4・5・6・12・19・22・26・27・32・46・50・54・58・61
カケス	3	27・32・58
カシラダカ	6	8・9・10・12・32・58
カモメ	4	5・6・32・50
カルガモ	27	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・16・17・19・22・25・26・27・32・39・43・46・50・54・56・58・61
カワウ	29	1・2・4・5・6・7・8・10・11・12・15・16・17・19・20・22・25・26・27・31・32・43・46・47・50・54・58・59・61
カンムリカイツブリ	5	10・22・32・50・58
キアシシギ	2	46・61
キクイダタキ	4	7・8・47・58

種 類	地区数	目撃された地区
キンクロハジロ	9	2・5・6・7・10・26・32・58・61
クイナ	3	27・32・61
クサシギ	1	32
コアジサシ	2	32・50
ゴイサギ	9	1・11・16・17・19・25・26・32・61
コガモ	22	1・4・5・6・7・8・9・10・11・12・16・19・22・26・27・32・43・ 46・50・54・58・61
コサギ	25	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・16・19・26・27・32・43・ 46・47・48・50・54・56・58・61
コサメビタキ	2	26・32
コジュケイ	1	26
コチドリ	14	1・6・10・11・16・22・27・32・46・48・54・56・58・61
コミミツク	1	32
コムクドリ	5	26・32・54・59・64
シメ	18	5・7・10・15・19・22・26・27・28・32・47・48・50・ 51・54・56・58・59
ショウドウツバメ	1	6
ジョウビタキ	37	1・2・6・7・8・9・10・12・14・15・16・19・22・ 25・27・28・29・32・36・37・39・43・44・45・46・ 47・48・50・51・54・55・56・58・59・61・64・65
シロハラ	16	1・7・15・19・26・27・31・32・44・45・47・50・ 51・56・58・59
スズガモ	1	2
セグロカモメ	5	1・10・22・32・50
ダイサギ	20	4・5・6・8・9・10・11・16・19・22・26・27・32・ 43・46・50・54・56・58・61
タゲリ	7	5・7・10・16・32・46・58
タシギ	7	1・11・16・46・54・58・61
タヒバリ	8	5・10・15・22・32・54・58・61
チョウサギ	8	2・5・11・12・17・32・54・58
チョウゲンボウ	14	1・5・7・10・11・12・32・46・47・48・50・58・ 59・61
ツグミ	42	1・2・4・5・6・7・8・9・10・11・12・15・16・17・ 19・22・25・26・27・28・31・32・36・37・38・39・ 43・44・45・46・47・48・50・51・54・55・56・58・ 59・61・64・65
ツミ	8	4・5・7・9・15・25・27・47
トビ	5	7・10・32・47・58
ニシセグロカモメ	1	32
ニューナイスズメ	1	32
ノスリ	4	19・27・32・58

種 類	地区数	目撃された地区
ノビタキ	1	32
ハイタカ	9	7・19・27・32・47・48・50・56・58
ハシビロガモ	4	19・46・54・61
ハヤブサ	4	2・7・32・58
バン	13	1・2・4・5・19・26・27・32・46・54・56・58・61
ヒドリガモ	16	1・2・4・5・6・7・10・19・26・27・32・46・50・54・58・61
ビンズイ	3	6・15・47
ベニマシコ	5	10・22・27・32・50
ホシハジロ	14	5・6・7・10・19・22・26・27・32・46・50・54・58・61
マガモ	12	4・8・9・11・19・26・27・32・46・54・58・61
ミサゴ	3	10・32・50
ムギマキ	1	47
ムナグロ	6	5・6・11・22・32・58
ユリカモメ	15	2・5・7・10・11・12・16・19・22・26・27・32・50・58・61・
ヨシゴイ	1	26
ルリビタキ	3	26・27・32

参考資料

○ 平成 30 年度における活動の実績

第 1 回松戸市地域環境調査研修会

日 付 平成 30 年 4 月 12 日 (木)

場 所 江戸川河川敷

内 容 野鳥観察

参加者 27 名

第 2 回松戸市地域環境調査研修会

日 付 平成 30 年 10 月 30 日 (火)

場 所 京葉ガスF松戸ビル 5階 会議室

内 容 平成 29 年度報告会及び講演会「野鳥観察の仕方」

講 師 公益財団法人 山科鳥類研究所 平岡 考 氏

参加者 25 名

第 3 回松戸市地域環境調査研修会

日 付 平成 30 年 11 月 27 日 (火)

場 所 21 世紀の森と広場

内 容 野鳥観察

参加者 21 名

平成 31 年度松戸市地域環境調査員新規登録者向け説明会

日 付 平成 31 年 2 月 8 日 (金)

場 所 京葉ガスF松戸ビル 6階 会議室

内 容 松戸市地域環境調査の概要説明

参加者 10 名

○ 平成 30 年度の野鳥観察会で確認できた野鳥

第 1 回地域環境調査研修会
平成 30 年 4 月 12 日 (木)

場所：江戸川河川敷

1	ウグイス	14	ムクドリ
2	カワラヒワ	15	メジロ
3	キジ	16	モズ
4	キジバト	17	アオジ
5	コゲラ	18	オオバン
6	シジュウカラ	19	カルガモ
7	スズメ	20	カワウ
8	ツバメ	21	カンムリカイツブリ
9	ドバト	22	コガモ
10	ハシブトカラス	23	ツグミ
11	ハシボソカラス	24	ユリカモメ
12	ヒバリ	25	セグロカモメ
13	ヒヨドリ	計 25 種	



野鳥観察の風景

第3回地域環境調査研修会
平成30年11月27日(火)

場所：21世紀の森と広場

1	ウグイス	21	オカヨシガモ
2	エネガ	22	オナガガモ
3	オオタカ	23	カイツブリ
4	カワセミ	24	カルガモ
5	カワラヒワ	25	カワウ
6	キジバト	26	コガモ
7	コゲラ	27	コサギ
8	シジュウカラ	28	シメ
9	スズメ	29	ジョウビタキ
10	セグロセキレイ	30	ダイサギ
11	ハクセキレイ	31	ノスリ
12	ハシブトカラス	32	マガモ
13	ハシボソカラス	33	アリスイ
14	ヒヨドリ	34	ツミ
15	メジロ	35	タシギ
16	モズ	36	アトリ
17	ヤマガラ	37	ユリカモメ
18	アオサギ	38	イソシギ
19	アオジ	合計 38種	
20	オオバン		



野鳥観察の風景

○土地利用状況

土地利用状況調査は、平成17年度から平成21年度にかけて、調査員自身に野鳥観察とは違った目線で、地域の環境を知ってもらえるのではないかという目的から実施していましたが、平成23年度からは都市計画基礎調査より土地利用現況を掲載しています。

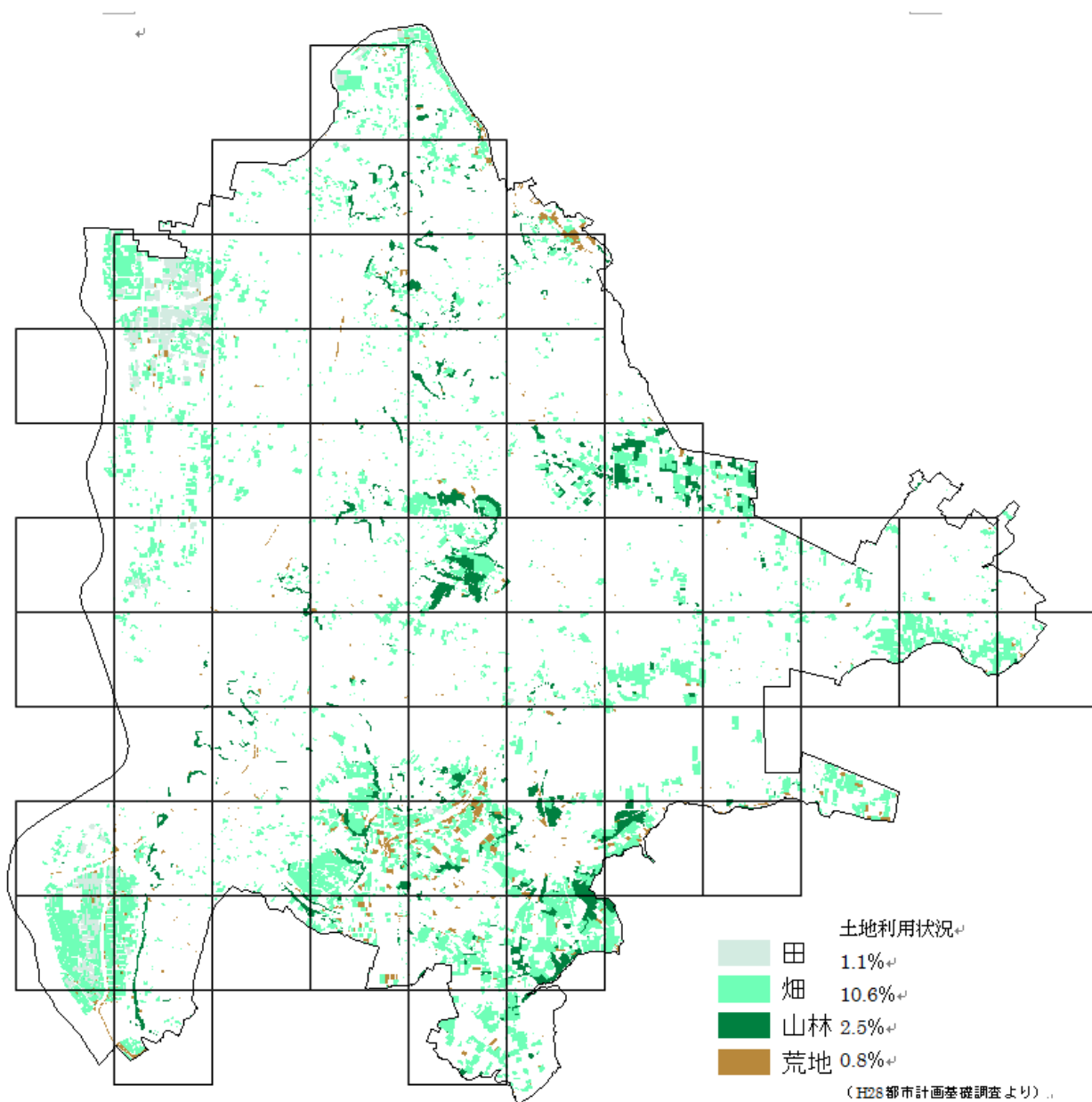


図-8 土地利用状況

○特定外来生物

平成 27 年度から地域環境調査などでの活動において、特定外来生物やその他の生きものを目撃した際には、調査員の方に報告をお願いしているところです。

「**特定外来生物**」・・・外来生物（海外が起源のもの）のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から環境省において指定されたものをいいます。

特定外来生物は、生きているものに限られ、個体だけではなく、卵、種子、器官なども含まれます。また、原則として飼育・栽培・保管・運搬することが禁止されています。

目撃した場合には、写真を撮影の上、環境政策課に連絡いただくか、松戸市ホームページに専用のフォームがありますので、必要事項を入力の上、投稿してください。

専用フォーム

【松戸市 TOP⇒暮らし⇒環境⇒自然環境⇒外来生物⇒特定外来生物の目撃情報投稿フォーム】

アドレス：

http://cms.city.matsudo.chiba.jp:10080/5d521702-b804-4b91-b8ed-a699371b5c63/mokugeki_jyouhou.html

(1) 市内で確認されている特定外来生物（一部抜粋）

・アライグマ



ペットとして飼われていたものが野生化した結果、生態系や農作物などに深刻な被害を与えています。見かけによらずどう猛な性格をしています。

大きさ	体長 40～60 cm、尾が 20～40 cm 全体で 60 cm～1m位になります。
特徴	尾のしま模様が最大の特徴です。模様がなければ違う生きものです。

・カミツキガメ



大型に成長し、様々な生物を捕食します。また、噛む力が強く、人間の身体への被害も想定されます。

大きさ	背甲長 50 cm 体重は約 30 kgにも達する。
特徴	鋭い口と爪、甲羅に 3 本の隆条（キール）、尾は 1～3 列の鱗状

・オオキンケイギク



5月～7月頃にかけて咲き、道端や河原などに生息します。強靱なため一度定着すると他の在来植物などの生育場所を奪ってしまいます。

大きさ	草丈は 30～70 cm程度
特 徴	黄橙色の花びら、花びらの先端がギザギザ

・アレチウリ



一年生のつる植物で、開花期は8月～10月になります。全国の河川等で繁茂し、他の植物がほとんど生育しないなどの恐れがあります。

大きさ	長さは、数メートルから十数メートルに及ぶ
特 徴	葉がハート形の手のひらサイズ、ツルからは3～4本の巻きひげ

(2) 千葉県内で確認されている特定外来生物

今のところ市内で確認はされておりませんが、近隣市では確認されたものもいます。定着等を防ぐためにも調査の傍ら、目撃した場合には、情報提供をお願いいたします。

千葉県内で確認記録のある特定外来生物一覧 (平成30年10月31日 現在43種)					
哺乳類	1	アカゲザル	甲殻類	25	ウチダザリガニ
	2	アライグマ ★	昆虫類	26	ヒアリ
	3	キョン		27	アカカミアリ
	4	マスクラット		28	セイヨウオオマルハナバチ
	5	アカゲザルとニホンザルの交雑種		29	アカボシゴマダラ ★
鳥類	6	ガビチョウ	クモ類	30	セアカゴケグモ
	7	カオジログビチョウ	軟体類	31	カワヒバリガイ
	8	カオジログビチョウ	植物	32	ナガエツルノゲイトウ ★
	9	ソウシチョウ		33	ミズヒマワリ
	10	カナダガン		34	オオキンケイギク ★
爬虫類	11	カミツキガメ ★		35	オオハンゴウソウ
	12	ハナガメ		36	ナルトサワギク
	13	ハナガメとニホンイシガメの交雑種		37	オオカワヂシャ
	14	ハナガメとクサガメの交雑種		38	アレチウリ ★
両生類	15	ウシガエル ★		39	オオフサモ ★
魚類	16	チャンネルキャットフィッシュ		40	ボタンウキクサ
	17	ブルーギル ★		41	アメリカオオアカウキクサ
	18	コクチバス	42	オオバナミズキンバイ	
	19	オオクチバス ★	43	ナガエモウセンゴケ	
	20	カダヤシ ★			
	21	ストライプドバス			
	22	オオタナゴ			
	23	コウライギギ			
	24	ガー科			

★市内で確認しているもの

「特定外来生物アライグマ ーなぜ問題なのかー（改訂版）」参照

(3) 近年話題になった特定外来生物

松戸市内では確認されていませんが、近隣市や近隣の県等で確認されています。

・ヒアリ（千葉県内未確認）



南米中部原産で、日本には港湾などのコンテナに紛れるなどして見つかります。攻撃性が強く、巣などに刺激を与えると集団で襲いかかります。

大きさ	2.5mm～6mm程度 体の色は全体的に赤茶色
特徴	背中に2つのこぶ。
備考	在来のアリの中にも体が赤茶色のアリはいます。赤茶色だからといって必ずしもヒアリとは限りません。

・セアカゴケグモ（千葉県内目撃あり）



地面や人工物の裏など日当たりの良い暖かい場所に営巣します。攻撃性はありませんが、むやみに近づくと噛まれる恐れがあります。

大きさ	メスは大きさが1cm程度、脚を広げると約3cm。オスはその半分
特徴	メス：背中に縦に赤い斑紋有り。 オス：斑紋無し。

○その他の生きもの

地域環境調査では、先に挙げた特定外来生物の他、調査員の方が興味を持った生きものなどについても報告をいただいているところです。

調査の傍ら、気づいた生きものや珍しい生きものがいましたらご報告いただいています。

<トンボの目撃情報>

5 地区	コシアキトンボ・ギンヤンマ・コシアキトンボ
7 地区	オニヤンマ・ギンヤンマ
43 地区	ハグロトンボ
58 地区	アカトンボ

<蜂の目撃情報>

5 地区	セイヨウミツバチ
7 地区	クマバチ・アシナガバチ

<蝶の目撃情報>

5 地区	モンシロチョウ・モンキチョウ・アカタテハ・ヤマトシジミ・アキアカネ・ナミアゲハ・カノコガ
7 地区	ナミアゲハ・アカタテハ・アキアカネ・アオスジアゲハ・ムラサキシジミ・ベニシジミ・ウラギンシジミ・クロアゲハ・モンキチョウ・モンシロチョウ
25 地区	ツマグロヒョウモン・ナナホシテントウ・ナガサキアゲハ

<セミ類の目撃情報>

5 地区	アブラゼミ・ミンミンゼミ
7 地区	ミンミンゼミ・アブラゼミ・ツクツクホウシ
15 地区	ミンミンゼミ・ヒグラシ
36 地区	アブラゼミ・ミンミンゼミ・ヒグラシ・ツクツクホウシ
63 地区	ツクツクホウシ

<その他生きものの目撃情報>

1 地区	ハクビシン・コイ
5 地区	クワガタ・ユスリカ・ツリアブ・イエバエ・キンバエ・コバネイナゴ
7 地区	ガガンボ・ツリアブ・ハナアブ・トノサマバッタ・ナナホシテントウ
13 地区	タヌキ・ハクビシン
15 地区	ヤモリ
16 地区	ハクビシン
17・19・36・39 地区	コウモリ
32 地区	ムシクイ・タヌキ
39 地区	トカゲ・ヘビ
54 地区	ミシシippアカミミガメ
65 地区	アカボシゴマダラ

○コラム

このページでは、調査員の方から報告のあった野鳥の写真を紹介します。
(一部抜粋)



【ベニマシコ】

・撮影者：吉田調査員
32 地区

【キアシシギ】

・撮影者：小松調査員
46 地区



【ハクセキレイ】

・撮影者：植田調査員
61 地区



【タシギ】
・撮影者：大川調査員
16 地区



【ムナグロ】
・撮影者：松岡調査員
58 地区



【ヒバリ】
・撮影者：村松調査員
32 地区

○地域環境調査員からの短信 (一部抜粋)

地域環境調査では年2回(半年に1回)、調査員が事務局へ調査票を提出していただきます。その中で調査員から市へ短信が寄せられることがあり、身近な環境の変化や出来事を報告していただいています。ここでは、それらの一部をご紹介します。

平成30年度調査員短信(前期)

地区	
1	<p>・野鳥そのものではないのですが、最近、富士川、坂川、その周辺にいわゆるレジ袋などのゴミが散乱しているのが気になります。また、低木が流域の狭い川に覆いかぶさるように倒れているのを目にすることがあるのですが、これは野鳥にとってどうなのでしょうね。</p>
1	<p>・ツバメが激減、4月5日大金平大橋上流で、今年初めてのツバメ1羽を見る。幸田、畑沿い住宅のガレージの巣の中は空っぽのようである。 ・5月31日午前11:30頃、坂川御體橋付近の畑から、キジらしき鳴声を3回聞いた。 ・6月12日午前9:30頃、鳴き声でもしやと思ったら、坂川御體橋のネギ畑のへりを悠然と歩くキジを見る。 ・9月16日、坂川の大金平大橋上流で、鯉が2,3匹ずつ寄り添うように泳ぐ、沢山の群れを見る。最近坂川を泳ぐ魚の影を見かけないのでほっとする。</p>
1	<p>・8/31(金)幸田上空を7羽のチョウゲンボウが旋回していた。タカ柱の様に見えた。</p>
2	<p>・この観察を10年以上続けていますが、初めてカワセミを坂川で観察しました。水がきれいになったのでしょうか。</p>
4	<p>最近、キジの姿を見なくなった。逆にカラスは増えたような気がする。</p>
5	<p>①カワセミ、全く見られず残念! ②コゲラ、5/22あじさい公園にて若鳥2羽+成鳥2羽を視認。③スズメ、5月中旬から若鳥が多くなった。8月中旬以降、稲刈りの済んだ直後の田圃に100羽が集団で採餌。④ムクドリ、スズメ同様5月中旬以降は若鳥が多くなり、秋には100羽の大集団となり、時にはドバトの30羽ほどの群れと一緒に稲刈り直後の田圃で採餌。⑤ヒドリガモ、4/19坂川にて40羽を視認したのが最後、24日には確認できず帰国したらしい。⑥ツグミ、4月初旬に区域内で14羽を確認。24日には4羽のみとなり、帰国した様子。⑦ムナグロ、4/19新松戸西小付近の田圃に飛来、24日には58羽を確認。5/12に4羽を確認したのが最後となった。⑧ツミ、5/26本年初確認～昨年まで数年間、営巣を続けていた場所では確認できず。⑨チョウゲンボウ、毎年必ず見受けられたのに、残念ながら、本年上期は未確認状態。⑩カルガモ、今年は見受ける機会が少なくなり、子連れも見られなかった。⑪オオバン、4/2坂川にて最大6羽を確認。4/243羽を確認するも以後は未確認が続く。⑫ハクセキレイ、絶対数が大幅に減少傾向にあると思われる。出現頻度が少なすぎる。</p>

地区	
	<p>《草花・昆虫》①見受けられる草花多数、4月＝タンポポ類・チガヤ・ヤセウツボ・ハハコグサ・エゴ・ミカン。5月＝コバンソウ・ヒルガオ・クワ。6月＝ニワタバコ・ツユクサ・ヤブカンゾウ・ハキダメギク・ワルナスビ・サルスベリ。カントウタンポポ～4/14に早くも綿毛を飛ばしていた。ツユクサは次々に花を咲かせ続け、8月中旬から9月中旬には稲刈りの完了した田んぼの両側に満開を続け素敵な花道に！②昆虫類はこれらの花の蜜を求め、モンシロチョウ・モンキチョウ・ナミアゲハ・ハナ蜂類・シオカラトンボ・ギンヤンマ・コシアキトンボ・カノコガ・クワガタムシ等が見受けられた。セミ類＝夏の間、朝から晩まで聞こえていたアブラゼミ・ミンミンゼミの大合唱も8月末には終わり、9/9にツクツクホウシの声を聞いたのが最後。</p>
6	<p>・今年の夏はセミが少ない。7～8月、8番街マンション中庭でのラジオ体操は毎年セミの声の中でしたが、今年は少ない。地中から這い出す穴はたくさんあるのにもかかわらず……。5月頃から急に増え出したオナガのせいだったようです。オナガは2番街に多く鉄塔通りまで行かないと見られなかったのですが、今年は朝から大きな声と糞害に悩まされました。</p> <p>・新坂川の流れが悪く猛暑続きで外来種と覚しきバイカモもどきの白い小さい花をつけた藻が繁殖してしまいました。</p> <p>・新松戸駅近くの櫛通りに続く大橋にデッキが出来上がりましたが、川の汚れがひどく、何の為のデッキかわかりません。是非衛生上からも美観からも（是非）川の清掃を呼びかけて頂きたいと思います。</p>
7	<p>《上期の鳥》 ①イソヒヨドリ、4/10 1羽を JR/常磐線ガードに近いマンション付近で初認。巣造りの場所でも探していたのか、建屋から出てきたところをブトガラスに追われて退散。16日にも見かけたがその後は未確認。子育てを確認したかったのに残念！ 本件に関する情報～3/30、第6区内・新松戸駅&新坂川にも近いアゼリアパークハイツ西側外階段手摺付近に飛来したのを目撃。また、1/21の「66会・第1区を中心とした観察会」でも、坂川・富士川合流点に近い御體橋付近にて多数の参加者が視認。②アカハラ、4/16 初認。21日には囀りも聞かれたがその後は未確認。③シジュウカラ、5/11 関さんの森・下側の湧水池に近い民家・「車寄せの横筒」付近で餌運びに忙しい親鳥を視認。警戒を解くため少し離れた場所から餌を啜って入るのを確認。木が茂っていて民家の主は気付いていない様子。6月初旬からスズメと共に「若」が多い。④ムクドリ&ヒヨドリ、7月下旬～8月末まで、何処かへ避暑に出かけたのかこの2種は姿が見えなくなり、9/2 ヒヨドリ1羽、ムクドリ2羽を確認できた。</p> <p>《上期の草花》 ①草花～ウラシマソウ・ジロボウエンゴサク・ホタルブクロ・クサノオウ・ムラサキケマン・シャガ・スイカズラ・オオマツヨイグサ・カンナ・ネジバナ・ヤブカンゾウ・ミズヒキソウ・チダケサシ・etc. オオセキショウモ、9/27 新坂川の水面を覆うこの水草が沢山の小さな白い花を咲かせていた。外来種だが…。②樹木、ヤマブキ・</p>

地区	
	<p>ニワトコ・アオキ・ウグイスカグラ・キイチゴ・グミ・スイフヨウ・ネム・エゴノキ・クリ・ミズキ・ヤマボウシ・シモクレン・ドウダンツツジ・etc. (*）ネムの花、4月初旬から咲き始めたが、今年の異常気象のなせる業か？ 5月には満開となり、一度は無くなった筈なのに9月にも「再度満開」となったのは何とも不思議！ 7区は溜上の森～東漸寺～関さんの森などに斜面林が多いので比較的樹木～緑が多く、沢山の草花が咲き～蜜の提供～草木が実を結ぶことで昆虫や鳥たちの貴重な餌となっている。</p> <p>《昆虫類》 ①4月、ガガンボ・クマバチ・アシナガバチ・ツリアブ・ハナアブ・ナナホシテントウ・ナミアゲハ・アカタテハ・ムラサキシジミ・ベニシジミ・モンキチョウ・モンシロチョウなどが出現。6月、25日 トノサマバッタ、27日 ミンミンゼミ 初鳴きを確認。この時点ではアブラゼミは鳴き出していなかったのでビックリ！普通ならニイニイゼミ～アブラゼミ～ミンミンゼミ…という順だが。7月3日 オニヤンマ～初認、19日 ギンヤンマ～初認。9月＝アブラゼミ・ミンミンゼミ・ツクツクホウシの3種が、9/6に合唱をしていたのが最後？以降はセミの声無し。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年4月21日 東漸寺にてヤマガラが求愛給餌しようとするオス。チリチリチリチリチリ・・・とチリチリした音質の細い機械音のような声で餌をくわえたヤマガラが翼半開きでふるわせていた。 ・2018年4月28日 溜の上の林においてシジュウカラの求愛給餌。リュウリュウリュウ・・・という声が出て、林内の低い木上でシジュウカラ雌雄が求愛給餌していた。 ・2018年7月22日 幸谷交差点そばのスダジイの敷地において、ハクセキレイ成鳥1羽、幼鳥3羽の家族群。 ・2018年8月21日 関さんの森において、サシバ幼鳥2羽、ピクィーとさかんに鳴く。 ・2018年9月24日 東漸寺裏手のグラウンドの桜において、エゾビタキ2羽。
8	<p>2018年5月20日 小金公園すぐ南側の道路沿いの電柱。スズメ交尾。ヒヨヒヨヒヨと鳴く。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年、12月に発見したチョウゲンボウと同じ個体かどうか分からないが、9月に見たチョウゲンボウは一本足であった。カラスに追われていた。 ・オオヨシキリは昨年は1箇所で囀っていたと報告したが、今年度は6月1日に4箇所で囀っていた。しかし、当日、用水路や田圃などで除草が始まっていて、その日以降、オオヨシキリは認められなかった。
15	<ul style="list-style-type: none"> ・シジュウカラのヒナがニイニイと鳴いて、枝に止まっていた。 <p>5/30 スズメの巣立ヒナ確認、7/8 ミンミンゼミ初聞、8/14 ヒグラシ初聞、4/4 夜ヤモリ初見。</p>
16	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年5月15日（火）午前8時過ぎ、馬橋高から日大への途中の田んぼ：ゴイサギ（成鳥）以前ゴイサギの幼鳥を馬橋高手前のよこ六間

地区	
	川岸で見たことはあるが、成長を見たのは初めてである。
17	・4/12 コウモリが新坂川でツバメの様に飯とりしていた、初めて。
19	・8月18日9:40 アブラコウモリが自然観察舎から3・4m上空を飛んでいた。
22	<ul style="list-style-type: none"> ・4月3日：ユリカモメが6～7羽飛んでいるが、中には頭が黒くなっているものもいた。 ・4月3日：河川敷の東屋の屋根の四方の隅に枯草が詰まっており、スズメが出入りしていた。巣があるのだろう。 ・4月14日：ツグミがフィーフィー、フェロフェロと、ぐぜっていた。 ・4月23日：古ヶ崎の水田に水が入り、今年もムナグロとコチドリがやってきた。 ・河川敷の木にハシボソガラスの巣があり、3/30、4/3、4/23に観察した時はカラスが巣に座っていた。6/8には河川敷のグラウンドに幼鳥が2羽いて、時々親が餌を与えていた。 ・6月8日：ツバメの幼鳥が数羽河川敷のグラウンドに降りていた。 ・7月26日：河川敷にツバメの幼鳥の姿が多く、中には座っているものもいた。 ・8月18日：グランドゴルフ場にムクドリが100羽以上群れて採餌していた。 ・8月18日：古ヶ崎の水田と屋敷林に合わせて200羽ほどのスズメが群れており、水田と電線や屋敷林を行ったり来たりしていた。
32	・ノビタキを見に来ている人が多かったが、見つけれませんでした。(9/23)
32	<ul style="list-style-type: none"> ・今年の7～8月は猛暑の為、外に出るのも大変。観察の回数も少なかった。 4/12 珍しい「ウズラ」を発見。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・6/17、ツバメの幼鳥が松戸川の手すりにとまっていて、とてもかわいらしかった。去年は、マンション5Fの我が家から、4羽のヒナが巣立ったのですが、今年は5月に1日だけ土を運んで来なくなってしまった。古ヶ崎の水田や農地が、いつの間にか住宅地になり巣材集めも大変になったのではないのでしょうか。他の場所も営巣に失敗し今年はツバメが全体的に少なかったです。 ・7月、カルガモの親子が、江戸川の干潟に来ていました。 ・8月、ハシボソガラスの幼鳥がフラワーラインの石碑に口をあけてとまっていた。口の中が赤いのと、喉元が透けているのがわかりました。 ・9月、カワウが松戸川で羽を広げていた。松戸川に光が反射してとても美しい情景でした。
32	4月3日：コスモス畑でコチドリ2羽を見つけた。その後も4/14、4/18、6/8に確認したが、残念ながら今年も雛を孵すことはなかった。
36	<ul style="list-style-type: none"> ・ドバトを多数(15羽ぐらい)近くの畑で見かける。 ・畑の上空は夕方アブラコウモリが飛ぶ。 ・ツバメもよく見かけるようになった。オナガも同じコースで飛来する。

地区	
	<ul style="list-style-type: none"> ・セミ（アブラ・ミンミン・ヒグラシ・ツクツクボウシ）例年より少ない。 ・当地にもムクドリの大群が飛来、八柱駅前に多数集結。 ・この秋は未だにモズを見かけない（10月5日現在）
38	<ul style="list-style-type: none"> ・最近はおナガをよく見る。（10羽ぐらいの群で）
45	<ul style="list-style-type: none"> ・たまたまなのか、観察しているときドバトをあまり見ない。キジバトのほうがよく見る。今年はおまたまなのか、一度もセグロセキレイを見ていない。ハクセキレイはよく見る。
50	<ul style="list-style-type: none"> ・4～5月、イソヒヨドリが親単体、または子連れでマンションの屋上でよく鳴いていた。
51	<ul style="list-style-type: none"> ・4月1日：シロハラがぐぜっていた。 ・4月16日：柿木台公園でセンダイムシクイが2羽、木々の間を飛び回っていた。 ・4月16日：川菽公園のユーカリの木にハシボソガラスの巣があり、カラスが座っていた。（5/16、5/20にも巣に座っていたが、5/23には姿がなかった） ・4月24日：千葉大園芸学部でキビタキが盛んに囀っていたが、上手くない。 ・4月26日：千葉大園芸学部の北斜面と南斜面でそれぞれキビタキが囀っていた。 ・6月9日：千葉大園芸学部の林でヤマガラ、シジュウカラ、エナガの幼鳥を確認した。また、芝生ではムクドリの幼鳥が親から餌をもらっていた。 ・7月10日：柿木台公園でムクドリの家族群、計40～50羽がにぎやかに採餌していた。 ・8月14日：千葉大園芸学部構内でハシブトガラスの家族群、計15羽程度が飛び回っていた。 ・8月18日：電線にムクドリ100羽ほどの群れが止まっていた。
54	<ul style="list-style-type: none"> ・この地区の観察を始めて数年経ちますが、国分川（春木川）の河川敷は、数年前の修景工事以来、全く手入れがなされずゴミの集積場と化しています。（大型ゴミの投げ入れもあり）また、泥の堆積で水路が狭まり、雑草が生い茂って、水鳥にとっての自然環境は悪化して行くばかりです。 ・野鳥以外の生物は、鯉、成長したミドリガメを多く見かけるようになりました。
58	<ul style="list-style-type: none"> ・6/5 午前4時頃遠くで“カッカカッ”という鳴き声、図鑑をみる。“オジロワシ”なんていうことはないでしょうね・・・？ ・春の風の強い日、ねぎ畑の作物を抜いた跡の盛り上がった土を風よけにたくさんのムナグロが集まっていた。自然界で生きる為の知恵のすばらしさを思った。風にも負けず来年も矢切に来てね。 ・農家の人の話から“春は畑に鳥の卵がある事があるので気を使うんだ、卵をみつけるとその区画は全部耕せないんだ、卵があるところだけ耕さないでおくと、大きい鳥に見つけられちゃうから”温かい涙の出そうな

地区	
	話だった。 地域の人達の自然界への優しい思いが環境を作っている事を改めて感じた。
59	<ul style="list-style-type: none"> ・4月2日：三矢小台公園にハシボソガラスの巣があり、カラスが巣に座っていた（4/13、5/13にも座っている姿が見られた）。 ・4月2日：神明神社のスギの木にハシボソガラスの巣があり、カラスが巣に座っていた（5/13にも座っている姿が見られた）。 ・4月17日：神明神社で一羽のヤマガラが芋虫のようなものをもう一羽のヤマガラに渡していた。求愛行動か？ ・4月19日：神明神社でアオジが綺麗な声で囀っていた。囀りは同時に2か所から聞こえた。 ・4月26日：神明神社でキビタキが囀っていたが声は小さく、へた。 ・6月13日：スズメが屋根の隙間に入ると同時に雛の声がした。巣があるのだろう。ムクドリが古家屋の戸袋に入ると雛の声が聞こえた。戸袋で子育てをしているようだ。 ・6月13日：ガソリンスタンドにツバメの巣が2つあり、一つにはツバメが座っており、もう一つには雛の姿があった。 ・7月3日：今年初めてツバメが巣をつくった商店がある。この巣に雛が3羽おり、親が盛んに餌を運んでいた。 ・7月29日：鴻之台公園でスズメの雛が木か落ちてバタバタしていたが、そのうち見えなくなった。 ・7月29日、30日：早朝ハシブトガラスの幼鳥が電信柱にとまってガーガーうるさく鳴いていた。 ・8月12日：三矢小台公園で巣立ちして間もないと思われるオナガの幼鳥3～4羽を確認した。
61	・ヒナの誕生 1.バン 1組 3羽 2.カルガモ 3組 3羽、11羽、7羽
63	・小浜屋敷の森は9月の時期、ツクツクボウシが旺盛に鳴いていた。
65	<ul style="list-style-type: none"> ・今年、アカボシゴマダラを覚えました。エノキの幼虫を見つけて、オオムラサキか？と思ったら、アカボシゴマダラでした。自宅で育てて子どもと観察しましたが、とても丈夫で夏休みの宿題にピッタリ。来年こそ、自由研究でチャレンジしてほしいです。 ・エリア外にはなりますが、自宅近くの森で大きめの羽を見つけました。オオタカだったらいいなあと思います。

平成 30 年度調査員短信（後期）

地区	
1	<p>・11月と12月、イソシギを富士川で見た。12月に見たときはイソシギがまさに魚を飲み込まんとするところだった。ほぼ同ジェリアで、カワセミが川べりの樋管に留まり一点を凝視しているところを見かけることがよくある。</p> <p>・2月の下旬の午後、坂川べりで久しぶりにキジを見た。私の足元から対岸へと川を横切った。オスだがキジ特有の東部の鮮やかな色は見られなかった。</p>
1	<p>・10/10 7:15頃、流山市前ヶ崎方向よりオオタカが1羽飛来し、幸田配水場前の鉄塔上にとまったところ、周辺にいたハシボソガラス数羽が追い立てるようにオオタカの周辺を旋回しながら騒いでいた。10分位後にオオタカは飛び去った。</p> <p>・2/5 早朝5:30頃、幸田3丁目の路上でハクビシン2匹がじゃれ合いながら道を横切った。</p>
1	<p>・1/5 自宅の裏庭のツゲの枝にトカゲが刺さっているのを発見、モズの仕業だろうか。</p> <p>・3/30 am.10:30頃、坂川八木乃橋鉄塔脇の畑をゆっくり歩くキジ(雄)を見た。その前にケンケンと鳴く声を2~3回聞き、もしやと思っていたところだった。</p> <p>・3/18 坂川の土手脇で、自分の目でカワラヒワを初めて見つけられたのは、とてもうれしく感じました。</p>
4	<p>・近くの富士川や坂川には、カルガモ(周年)や多くのヒドリガモ(冬季)などがいて、散歩する人の目を楽しませてくれている。しかし、もう20年ほどもまえから、時々鷹狩(鴨狩)に来る人を見かける。ある時は老人1人で、またある時は30~40才代の男5人ほど(女性がいる時もある)が、それぞれ鷹を手に乗せて鴨を捕りにやって来る。平成30年も解禁直後に集団でやって来て、多くの鴨を捕っていった。こういう連中が来ると、当然鴨は警戒してよそへ行ってしまふ。</p> <p>平成30年は特に酷かったようで、富士川には年末ごろになってやっと少しずつ戻って来たが、坂川には殆んど帰ってこなかった。かつては坂川にはヒドリガモの大群が見られたものであった。大都市近郊でこんなことを放置しておいてよいのだろうか。松戸や流山は、もう田舎ではないのである。鴨狩などという道楽は、人里離れた山の中でやってほしいとつくづく思う。行政が何とかできないものだろうか。野鳥を愛する者の悲痛な声である。</p>
5	<p>① 暖冬のためか？足元ではオオイヌノフグリ・ホトケノザ・トケノザ・カタバミ・ホトケノザ・ノボロギク・ナズナ・ハキダメギク・セイヨウタンポポ ~ 陽当りの良い農道脇&堤防道路沿いでは、冬の間も咲き続けていた。風の穏やかな暖かな日にはユスリカの群舞があちこちで見られた。②イソシギ ~ 10/2 坂川放水路・仲道橋付近にて今期初認。以後、3/31まで河川敷のコンクリート堤防水際を移動しながら採餌するのが見られる。</p>

地区	
	<p>③オナガ、10/2 15羽、以後は11/14 60羽、12/20 20羽、1/19 35羽、3/19 30羽の群れを新松戸南小学校付～モクレン公園付近にて確認。④モズ、10/13 3羽を初認。例年よりも出現頻度が少ないのが気になる。例年のソングポストで見られなくなり、5区内では多くても3羽のみ。しかし3/27にはカップル成立が見られた。⑤ヒバリ、10/16 新松戸西小学校付近の田圃上空で廻りながら帆翔。「雨水」(2/19)の翌日、2/20に西部小学校近くの上空で廻りつつ飛翔。以後よく見られる。3/31に6羽を確認。⑥ツグミ、11/14 坂川・幸谷橋(坂川と放水路との分岐点)付近にて1羽を今期初認。飛来数は例年よりも少ないと思われる。3/31には旅立ち前の6羽を確認。⑦ヒドリガモ、11/30 坂川放水路・差向橋付近で30羽を初認、以降最大60羽。3/31は28羽に。ホシハジロ、12/8 ヒドリガモの中に1羽を初認、以降最大10羽。キンクロハジロ、11/24 1羽を初認、以降最大で10羽。オオバン、昔はあまり見かけなかったが今や常連さん。11月には最大30羽。ユリカモメ、1/15に6羽を確認したが今年は少ない。⑧タゲリ、12/8 旭町付近の田圃に26羽が飛来、今期初認。1/19 30羽を確認した以後は未確認。⑨シメ、12/8 1羽を確認したがそれ以降は未確認。⑩アトリ、12/26 新松戸けやき通り・サンライトパストラル五番街&あおぎり公園付近に16羽が飛来、今期初認。その後、2月には最大60羽以上の群れを見られたが3月は未確認。⑪アオサギ、10～12月までは1羽のみ、以後は3月末まで見られず。⑫ジョウビタキ、前年度は1度見られたがH30年度は皆無。(観察時間帯とのミスマッチ?)⑬コサギ・ダイサギ、コサギは11月に、ダイサギは10月・3月に飛来、その他は未確認。上記⑧も田圃や水路に水が無く、採餌できない事が原因では?⇒ 農家への冬水田圃の推奨は?⑭モンシロチョウ・モンキチョウ・アカタテハ・ヤマトシジミ・アキアカネ・セイヨウミツバチ・ツリアブ・イエバエ・キンバエ、11月中旬まで健在なるも以後は3月中旬まで確認できず。⑮コバネイナゴ・キタテハ、12/20頃まで坂川放水路の堤防(土手)道路沿いで見受けられ、土手の草(アカツメクサ・タネツケバナ・ノボロギク etc.)には毛虫も見られた。⑯サザンカ、10月初旬に開花。スイセン、12月初旬に開花。両方とも3月末まで咲き続けている。⑰コスモス・アカツメクサ、12月中旬まで見られた。⑱菜の花・ウメ・ツバキ、2月初旬から咲き続けている。⑲ツクシ、3/5 今期初認、上空でヒバリが廻るのを聞きながら春の訪れを実感!⑳コブシ・サクラ・ハクモクレン・シモクレン・レンギョウ・ジンチョウゲ・ハナモモ等、3月中旬に沢山の「樹の花」が咲きだした。ハナモモ、坂川・差向橋右岸の満開は3/19。㉑モンシロチョウ・モンキチョウ・アカタテハ・アゲハ等、ホトケノザ・ヒメオドリコソウ・オオイヌノフグリ・スマレ・セイヨウタンポポ・タネツケバナ・ハルノノゲシ等が咲き誇る中、3月中旬に出番がやって来た。3/27にはアゲハ(春型)を今期初認したが、ヤマトシジミは3/31現在未確認。㉒ツバメ、3/27 新松戸西小学校付近にて今期初認。いつものように同小学校で営巣か?4～5個の巣が壊れており、直ぐに再利用出来そうなのは2個?㉓イワツバメ、昨年は3/23に坂川放水路・差向橋付</p>

地区	
	<p>近で（ツバメよりも早く）初認したが、本年は3/29に初認。暖冬で早く見られる筈なのに「寒波再来」で遅れたのか…？②④ツミ、3/27 坂川放水路・稲荷大橋脇、稲荷神社の大きなケヤキの樹上に飛来、今期初認。12月にチョウゲンボウを確認したが、久々の猛禽類登場！</p> <p>⑤カイツブリ、3/31 坂川放水路・仲道橋付近にて今期初認。まだ、白っぽい冬羽だった。⑥カワセミ、3/31 H30年度初認！最近坂川では見られず、本年度はダメかなと思っていたら、幸谷橋（放水路との分岐水門）付近に飛来、ダイビングを見せてくれた。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・イソヒヨドリ、アカハラ、この辺りではめずらしいが2～3回ずつ目にする事ができた。 ・ウグイスの声も今年はきかなかったが、隣近所できていたという話をきいた。 ・スズメだけは群れをつくって途絶えることはなかったが、エナガなどは特に見る機会が少なかった。
7	<p>①10月中旬まで、ヤマトシジミが飛び回り、足元ではノギク・ムラサキカタバミ・ツユクサ・アメリカセンダングサ・二ホンタンポポ・ミズヒキソウなどが咲いていた。ネムの花は、暖冬予報もあり、関さんの森の脇では10月末まで咲き続けていた。暖冬のせいか第7区では冬の間もオオイヌノフグリ・ハキダメギク・ホトケノザ等が咲き続けていた。1月になるとスイセン・ナノハナ・サザンカ・ツバキなどが咲き、2月に入るとウメ・ビワ、足元ではタネツケバナ・ムラサキカタバミなども加わり、3月には・ヒメオドリコソウ・カラスノエンドウ、コブシ・モモ・カイドウ・ジンチョウゲ・サクラ等も咲きだし、暖かな日にはツリアブ・キンバエ・ユスリカ・モンシロチョウなどが良く見られるようになった。②カワセミ～10/21 新坂川・大谷口新橋付近に♂が飛来。以後、川面を飛び、土手に生える木の枝などに止まるのを見かける。③オオタカ、10/17 溜上の森・溜脇公園上空を帆翔する1羽を確認。その後1/23にも同じ場所上空で確認。④アオスジアゲハ・クロアゲハ・アキアカネ・ウラギンシジミ・ツリアブ、10/25 東漸寺境内～関さんの森付近で飛んでいたが、以降は未確認。⑤ジョウビタキ・モズ・ツミ♀、10/25 東漸寺境内で今期初認。⑥ユリカモメ、11/28 新坂川・水琴橋付近にて今期初認。⑦イソヒヨドリ、12/7 新坂川・水琴橋と常磐線西側鉄道・土手付近にて、モズと縄張り争いをしていたようで、モズが負けてキチキチと鳴きながら線路の土手に近いマンションの樹林に逃げ込むのが見られた。予期せぬシーンにビックリ！ ⑧エナガ、12/10 東漸寺境内にてエナガ25羽を中心に、コゲラ・シジュウカラ・ヤマガラなど、カラの混群・大群団が樹上にて採餌を確認。2月末～3月初旬には2組のカップルが巣材集めをしているのが見られた。⑨アオジ、12/10 関さんの森にて今期初認。今期は出現頻度が少なく3月には確認できなくなった。⑩シメ、12/15 東漸寺境内にて今期初認。⑪コサギ、12/19 関さんの森・湧水池にて採餌中を視認。水面が小さくなったこの池、最近見られなかったが久々の飛来。⑫ツグミ、12/21 東漸寺境内・関さんの森にて今期初認。例年よりかなり遅いと思われる。</p>

地区	
	<p>⑬ウグイス、東漸寺・斜面林では冬中は「地鳴き」をしていたが、3/8に「囀り」に変わった。⑭3月になると足元の草花もいろいろ咲きだした。今迄のオオイヌノフグリ・ホトケノザ・ハキダメギク・スイセン・ナノハナなどに加え、ヒメオドリコソウ・ムラサキカタバミ・カラスノエンドウ・セイヨウタンポポ・カントウタンポポなどが加わり、樹木ではコブシ・モクレン・モモ・ウメ・ジンチョウゲなども咲いてモンシロチョウ・モンキチョウ・ベニシジミ・ヤマトシジミ etc. 蝶たちの出番がやって来た。⑮、ハヤブサ、2/18 関さんの森（子供の森）・西側住宅地の上空で帆翔する1羽を確認。その後、カラス数羽にモビングされ徐々に高度を上げて…。⑯ツバメ、3/24 新坂川・大谷口新橋付近を飛翔する1羽を今期初認。例年なら5区の坂川放水路・差向橋下で営巣する「イワツバメ」の方が先に見られるのだが今年は逆転現象。⑰ハイタカ、3/24 関さんの森上空を帆翔する1羽を確認。ハシブトガラス達のうるさい鳴き声に反応して上空を見上げると悠々と飛翔していた。⑱地域環境の変化、12月中旬、溜上の森から続く東斜面・畑地が14戸の住宅地として開発・売却されるとの看板あり。以前、この地域は大きな斜面林であったが、宅地として開発され今は住宅街に。例年ならこの小さな斜面林で春先にウグイスの囀りが聞こえるのだが、今年は音沙汰なしだった。これまで、この畑地＋クリの木20本が植えられた斜面林（笹竹が密植）が有り、ウグイス・シジュウカラ等が見られた。だが、この畑の緑が無くなると、関さんの森～東漸寺～大谷口城址公園に繋がる緑の回廊が少し途切れてしまい、「溜脇公園・溜上の森」の小さな樹林帯の存在感が大きくなるのでは…。溜上の森・南斜面の住民によると、民家では床下・屋根裏などに害獣の「ハクビシン」が出没しているとの事だが、この森には出没せぬように祈りたい。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・旭中学校近く、坂川の横の道路では、午前中カワウが電柱の上、コサギが電線上で休憩（日光浴）している。カワウのクチバシの先が釣り針のようになっているのを初めて観察できた。また、繁殖羽が見られ、冬季にも繁殖するのに驚かされた。 ・オヨシキリは昨年は1箇所で囀っていたと報告したが、今年度は6月1日に4箇所で囀っていた。しかし、当日用水路や田圃でアシ、ヨシなどの除草が始まっていて、その日以降、オオヨシキリは認められなかった。 ・タシギは5月しか確認されなかった。これも、用水路の除草によって隠れる場所が消失からかもしれない。用水路や田圃の除草の時期や回数は、生物環境に影響を及ぼすのではないのでしょうか。植物の場合でも、11区ではないですが、江戸川土手（千葉県側、松戸から流山）の菜の花の群落が今年はほとんど見られません。枯れた葦変わられています。
13	<ul style="list-style-type: none"> ・一昨年からカラスの飛来が少なく感じております。それは昨年は作物（キュウリ・トマト・トウモロコシ・ナス）の被害がありませんでした。その原因について私なりに検討しましたが、一つの要因として、平成29年4月に都市計画道路336号線が国道6号線から八ヶ崎にかけ約500mが貫通した影響があるのかと思います。しかし昨今は、早朝からその姿

地区	
	<p>が多く見うけられますので戻って来たと感じます。今年は野菜の防護策を余儀なくされると心配しております。なお、総体的には夏場を含め鳥類の数が減少していると思います。私はほぼ毎日八ヶ崎7丁目地先の畑に、早朝・夕方農作業に出かけ鳥の鳴き声・姿をよく観察しております。また、私の住宅付近は毎日スズメ・カラス・ムクドリ等が多数来てくれます。</p> <p>・野鳥以外に目撃した生物、タヌキ・ヘビ（2m）・ハクビシン。畑にはハクビシンの足跡が残っており毎日修復しております。</p>
16	<p>・1/5 最近ハクビシンの出現についてはよく聞くが、この日午前9時頃わが家の前の電線をハクビシンがつたわって行くのを見る。</p> <p>・1/5 10:10頃 香取神社の櫻の木にアオバトを見る（16区では非常に珍しい）</p> <p>・1/6 10時頃 日大歯学部グラウンドでタゲリを見る（16区では非常に珍しい）</p> <p>・1/13 11:30頃馬橋高校から日大歯学部へ行く途中の側溝の中にタシギを見る</p> <p>・2/7 10:20頃 上通橋近くの坂川でオカヨシガモ（♂♀）を見る。（16区では非常に珍しい）</p>
22	<p>・10/4 ヒバリが3羽上空を囀りながら飛び回っていた。秋に囀り??河川敷のグラウンドゴルフ場でセグロセキレイが2羽採餌していた。ハクセキレイはこの場所によく見られるが、セグロセキレイは珍しい。</p> <p>・12/5 200羽ほどのスズメが田んぼの横の電柱にとまり、時々田に降りて採餌していた。</p> <p>・12/26 80羽ほどのカワラヒワの群れが河川敷を飛び回っていた。</p> <p>・3/12 グラウンドゴルフ場脇の水路そばの木にカラスの巣がありハシボソカラスが座っていた。アシ原でさかんに採餌しているオオジュリンのなかに顔がだいぶ黒くなっているものがいた。そろそろ繁殖地に変える時期か。</p>
25	<p>・ツマグロヒョウモンの幼虫が自宅の庭に2匹いました。3/28、3/29</p>
27	<p>・例年以上にアトリ、シメ、ルリビタキを観察した。特に21世紀の森の環境が良くなったとは考えないのですが。</p>
29	<p>・近所で大きな木が切られたためか、野鳥のみられる回数が減っているように思えます。</p>
32	<p>・3/12 モズの♂と♀が10mほどの距離の枝にとまっており、追い払おうとはしていなかった。そろそろ冬の縄張りから繁殖をむかえる時期か。</p> <p>・32地区の南側の区域には野鳥観察によく行くので、参考のため同様の記録をとった。</p> <p>・10/4 タキの♂♀を確認した。渡りの途中に寄ったものと思われる。ムクイの姿を見たが、秋には囀らないので種の判別はできなかった。</p> <p>・10/22 キジが3羽連れだっていたがそのうち2羽は若鳥だった。</p> <p>・2/5 アリスイが枝の比較的高いところにとまっていた。毎年秋には</p>

地区	
	<p>見るが冬みることはいらない。今年は越冬したようだ。（毎年越冬していても見つからないだけかもしれない）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/12 松戸川と江戸川の間枝打ちとアシ刈りがなされ、道幅が倍以上に広がっていた。2月下旬に2週間ほどかけて整備されたい。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・ツグミ 11/20 初見、イソヒヨドリ 12月・3月江戸川河川敷出現、コミミズク 12月の夕暮れに飛出す、ウグイス 3/5 初鳴ホホホケキョ、ツバメ 3/16 初見 ・今年も渡りのアトリが少なかった。 ・2月タヌキが2匹死んでいた。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・10/1 江戸川フラワーラインにて、数羽のキジの幼鳥が雄の成鳥といえるのを確認しました。 ・11/11 ベニマシコ確認しました。当初はあしの中に入れて、姿を見ることができませんでしたが、3月になって枝にとまっているのを見つけました。松戸川沿いではジョウビタキ（オス）を2回連続確認しましたが、その後見かけたのはメスのみでした。3月にたまたま通りかかった畑にオスがいました。 ・11/15 ヒドリガモの群の中に1羽オカヨシガモがいました。 ・11/16 早朝江戸川にてカワウの追い込み漁をみました。カワウの大群が一斉に川に飛び込む光景は圧巻でした。 ・12/6 ツグミを確認しました。 ・2/14 江戸川干潟でタヒバリを確認しました。2月下旬ヒバリ・ウグイス・ホオジロがさえずり始めました。 ・3/14 江戸川上空にツバメ1羽確認しました。3/30には100羽以上の大群を見かけました。 ・3/23 江戸川干潟でコチドリ確認しました。ホオジロは常時沢山いました。 ・環境が変わったのか、花畑側の松戸川では昨年まで見られたオオバンは1度も見ませんでした。
36	<ul style="list-style-type: none"> ・10/23 モズを観察（去年は9/30、一去年は9/19） ・ハクセキレイをあまり見かけなくなった。 ・野良猫が急増（2017～18 1～2匹、2018～19 5～6匹）
39	<ul style="list-style-type: none"> ・3月上旬、松飛台公園の近くでハシブトカラスが巣づくりを始めました。3/16 同公園近くでウグイスの声を聞きました。3/22、松飛台産業道路でコウモリが夕方の空を飛び回っていました。
43	<ul style="list-style-type: none"> ・小山の眼鏡橋から赤入樋門までの坂川には、平成29年度までは、6月から9月にかけてハグロトンボが群生していました。しかし、平成30年度はハグロトンボを目視できたのは数匹でした。平成30年度は、江戸川から坂川に放流する水量が減少し、坂川の水質が減少した事が坂川の水質悪化をもたらし、ハグロトンボの生息環境を悪化させたものと考えます。水質悪化が環境に与える影響の大きさを実感した一年でした。
45	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて、湯楽の里の入った所でイソヒヨドリ（雄）を見てびっくり。その場に出会った方は以前から見ていらしたとかで、最近木を切ったの

地区	
	であまりみられなくなったと話してくれた。
51	・12/23 千葉大園芸学部のケヤキの大木でシジュウカラ、ヤマガラ、コゲラの混群が賑やかに採餌していた。
54	国分川（春木川）の河川敷の投棄ゴミは、年々増え続け環境は悪化するばかりです。周辺の畑や雑木林も減り続け、産業廃棄物の集積場が増えています。その結果でしょうか、3年連続、猛禽類（オオタカ、チョウゲンボウ）の撮影が出来ましたが、今回は叶いませんでした。また、泥や枯草の堆積で水路が狭まり、ゴミと雑草による自然環境の悪化で水鳥の数も減っています。
58	・10月、隣家の大きい木に虫がついているらしく、鳥が集団で来ては遊んでいく。 ・10月、近年にめずらしく、赤とんぼの群をよくみかける、うれしい。 ・野鳥について思うこと・・・鳥達の多くは人間と同じように心をかよわせたいと思っているのではないか！こんにちは！元気！と道すがらの木に留まっている鳥に声をかけると、たいがいこちらを向いてくれる。人間が鳥にたくさん話しかける事によって、鳥が人間とのおしゃべりを学習してくれると楽しいだろうな～。
58	矢切地区のネギ畑は年々野鳥の数が減ってきた。
59	・10/5 この秋初めてモズの高鳴きを聞いた。 ・10/20 斜面林からウグイスの下手な囀りが聞こえてきた。越冬に戻ってきたようだ。冬場は地鳴きだが、繁殖地に帰る前にまた囀りが聞こえる。 ・11/3 この秋初めてジョウビタキを見た。 ・2/2 7:40 矢切小のフェンスでキジバトの交尾を見た。 ・例年アオジが越冬していた神明神社とその周辺の藪が刈り払われ、今年は冬場にアオジを確認できなかった。 ・3/29 ハクセキレイが畑でぐぜりながら採餌していた。高圧線の鉄塔にカラスの巣がありハシボソガラスが座っていた。
65	・この数年でも、梨園の宅地化が進み、緑の部分がずいぶん減りました。なんとか緑地が残ると良いのですが。

○おわりに

平成 11 年度から始まった「生きもの調査」は、平成 17 年度から「地域環境調査」と形を変えて、平成 21 年度まで 5 年間の調査を行い、平成 23 年度より調査を再開し、平成 30 年度も報告書としてまとめることができました。

ご協力をいただいた調査員の皆様には、この場をお借りして御礼申し上げます。

この調査は市民の皆さんによるボランティアで実施しており、調査員の知識や経験、また各調査地区における調査員の人数や、調査頻度、調査場所、時間帯、天候等によっても観察結果に差が生じると考えられます。

そのため、今回報告された結果において、一概に報告の少ない地域が必ずしも野鳥が少ないとは判断できず、前後の調査結果も踏まえて傾向を把握していく必要があると思われます。少なくとも今回報告のあった野鳥が存在する、若しくはそれ以上の野鳥が存在する可能性は否定できないと考えられます。

松戸市環境計画で掲げる「めざすまちの姿」の創造は、調査員や環境ボランティアの方々にとどまらず、そこに住む市民一人ひとりが地域の環境について知り、関心を高め、自ら行動することから始まります。

この調査が多少なりとも足掛かりとなれば幸いです。

※調査結果は、後日、松戸市のホームページからもご覧いただけます。

市ホームページのトップページから【ホーム ⇒ くらし ⇒ 環境 ⇒ 松戸市地域環境調査 ⇒ 地域環境調査結果】と進んでください。

アドレス：

https://www.city.matsudo.chiba.jp/kurashi/kankyou/shizenkankyo/tiiki-tyouusa/chiikikankyou_kekka.html



32 地区 吉田調査員撮影
「ツバメ」

この印刷物は、グリーン購入法に基づく基本方針の判断の基準を満たす用紙を使用しています。

総合評価値 90
古紙パルプ配合率：70%
白色度：72%





松戸市地域環境調査報告書

令和元年 10 月

○発行 松戸市

〒271-8588

松戸市根本 387 番地の 5

TEL : 047-366-1111

URL : <http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

○編集 松戸市 環境部 環境政策課

TEL : 047-366-7089

FAX : 047-366-8114

イラスト提供 : 公益財団法人 日本鳥類保護連盟

令和元年 10 月 7 日発行